

JAMA電子情報フォーラム2020

クルマと社会をつなぐITシステム(VS) 部会 背景と目指すところ

一般社団法人 日本自動車工業会

電子情報委員会

クルマと社会をつなぐITシステム部会

統括分科会

分科会長 湯浅 康彦

クルマと社会をつなぐITシステム部会説明

	内容	説明者
15:35 – 15:50	クルマと社会をつなぐITシステム(VS)部会背景と目指すところ	クルマと社会をつなぐITシステム統括分科会長：湯浅 康彦
15:50 – 16:25	欧州におけるコネクテッドデータ利活用の取り組み	KPMGモビリティ研究所 ディレクター：池田 晴彦様

クルマと社会をつなぐITシステム(VS) 部会 背景と目指すところ

V : Vehicle

S : Society

これまでのモビリティ
モビリティは人々の暮らしに「感動」を届けてきた

より遠くへ... より楽しく...
より早く... より快適に...
より便利に... より安全に...
よりクリーンに...

1

<http://www.jama.or.jp/tokyo2020/innovation/vision/>

移動を取り巻く環境変化
今、改めて将来のモビリティを考えるべき時にあるのでは

移動を取り巻く環境は
大きな変わり目に
社会が変曲点を迎える中、
新たな技術、サービスが出現

2

将来のモビリティ重点課題
社会と国土・交通の変化が、将来のモビリティ課題を方向付ける

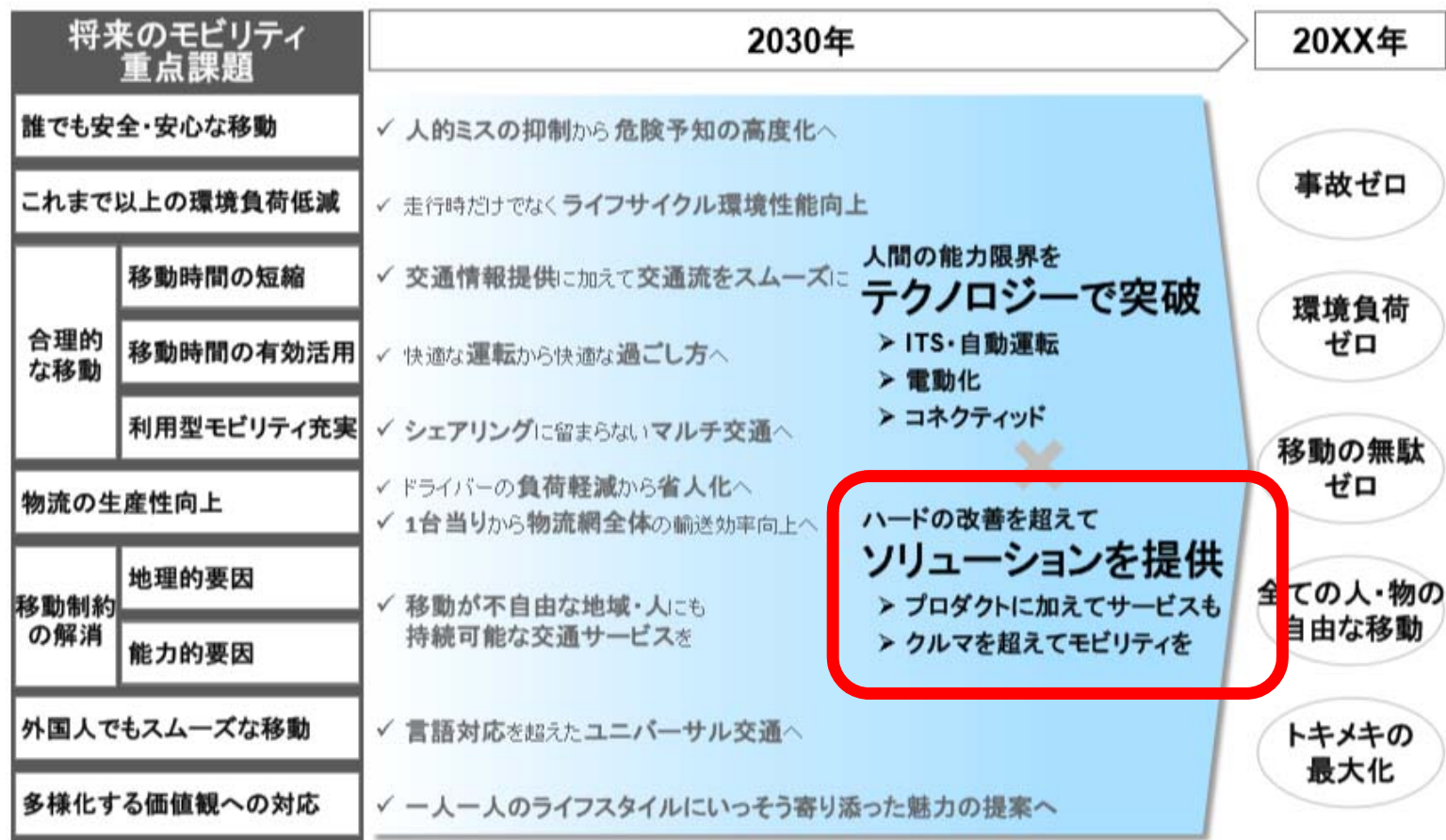
モビリティの普遍的ミッション	日本の将来変化	将来のモビリティ重点課題
<ul style="list-style-type: none"> 安全性向上 環境負荷低減 	<p>【社会像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ロングライフ ✓グリーン ✓グローバル ✓スマート ✓デジタル <p>【国土構造・交通体系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓大都市圏域 ✓地方圏域 ・ 中心部 ・ 町村部 	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも安全・安心な移動 これまで以上の環境負荷低減
<ul style="list-style-type: none"> 移動の効率性向上 		<ul style="list-style-type: none"> 合理的な移動 移動時間の短縮(渋滞緩和) 移動時間の有効活用 利用型モビリティ充実
<ul style="list-style-type: none"> 移動の自由度確保 		<ul style="list-style-type: none"> 物流の生産性向上 移動制約の解消 地理的要因(過疎地等) 能力的要因(身体の不自由等)
<ul style="list-style-type: none"> 情緒的価値の創造 		<ul style="list-style-type: none"> 外国人でもスムーズな移動 多様化する価値観への対応

7

2030年のモビリティ社会のあり方を自工会として検討し2017年に発表した

2030年のモビリティの方向性

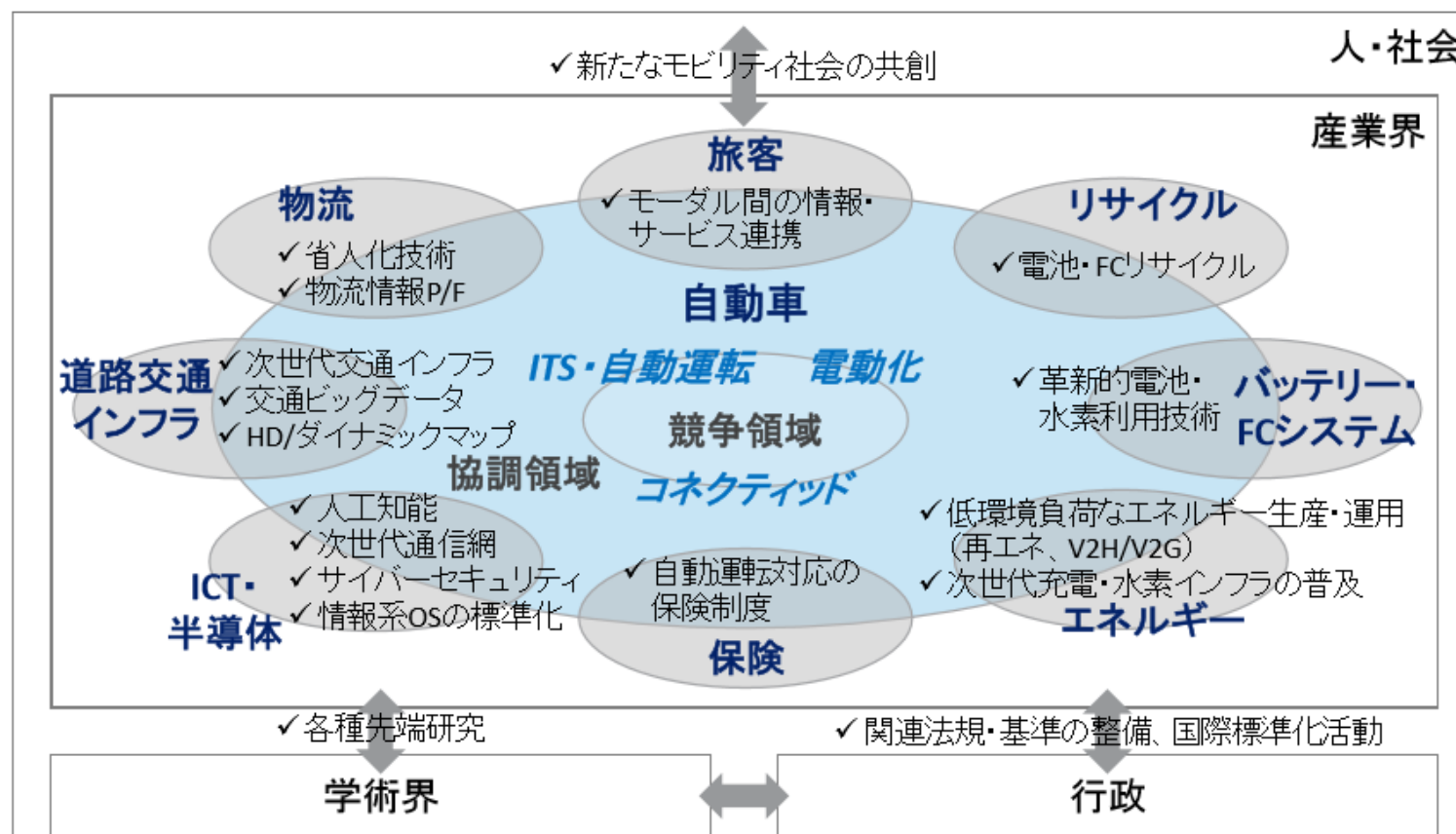
2030年をマイルストーンに、「感動」に繋がる取組みに挑戦し続ける



8

2030年のモビリティ実現に向けたエコシステムの形成

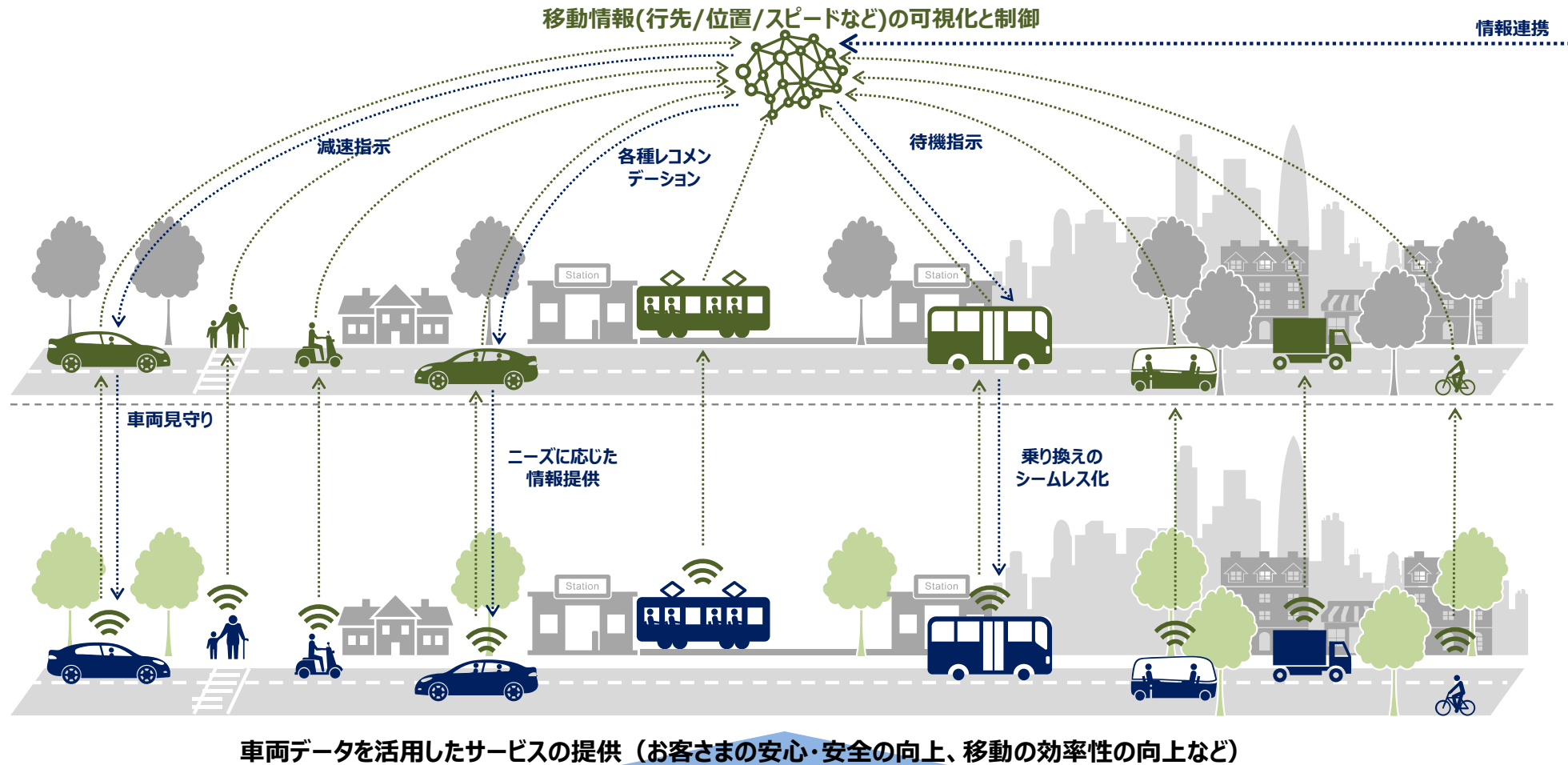
業界内外の協調的取組みを拡大し、モビリティの未来を引き寄せる



エコシステムの実現をIT視点から見ると

サイバー空間

現実社会



交通管理者・
道路事業者



警察・消防



医療機関



レッカー事業者



保険会社



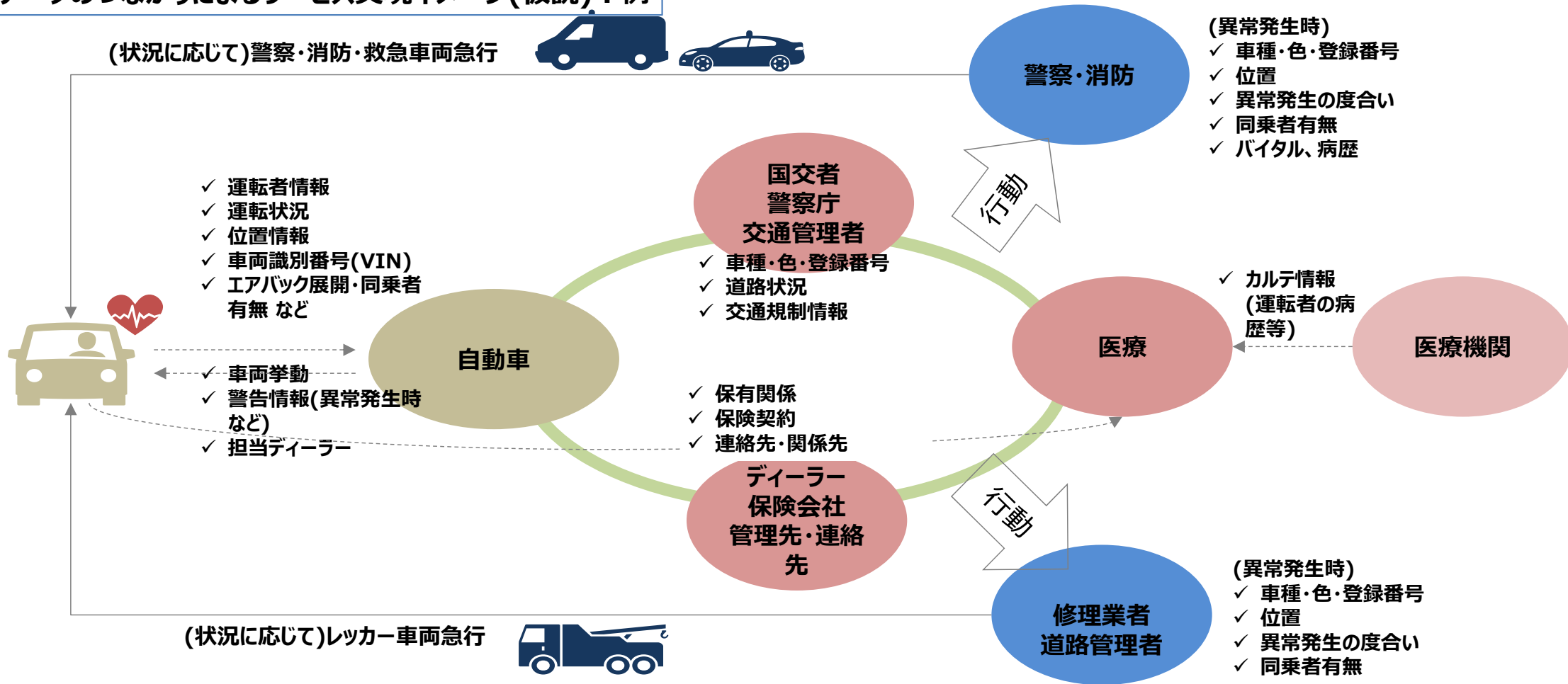
メンテナンス事業者

...

IoT・ビッグデータの世界：各社・各所で持つサイバー空間上に写像されたクルマや人のデータがエコシステムの形成によってつながり、新たなサービスやソリューションが実現すると考える

サービス/ソリューションの実現イメージ

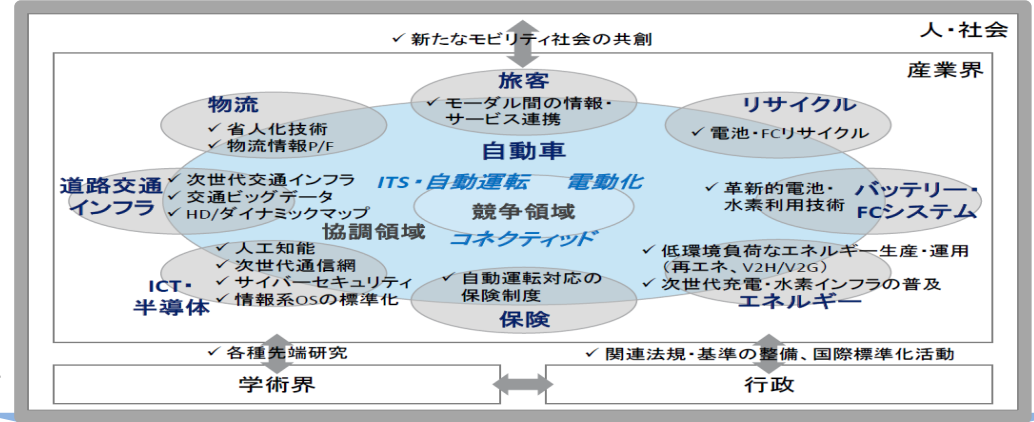
データのつながりによるサービス実現イメージ(仮説) : 例



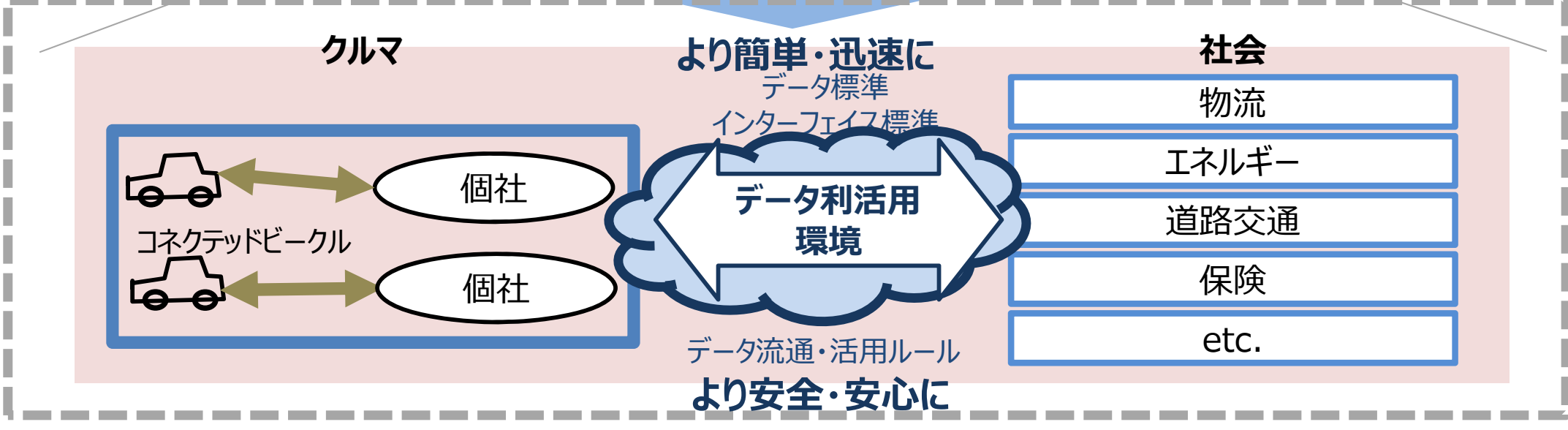
- カメラやバイタルセンサーなどによりドライバーの健康状態をモニターし、異常発生を把握し、状況により車両を制御する等によって、**事故の抑止を実現する。**
- 加えて、異常発生状況により、緊急車両を急行させる、医療機関と連携するなどを行い、**ドライバーの支援・救護を実現する**
- また運転中の状況の確認ができる、異常発生を速やかに通知される等で**可視化により家族など周囲の安心も実現する**

クルマからのデータが広くつながる事で社会的なソリューションを実現し得る

モビリティビジョンを具現化する「産業間のエコシステム」



産業間のエコシステムを実現するには



“産業間のエコシステム”を実現するには、クルマと社会をつなぐ安全・安心で簡単・迅速なデータ利活用環境を実現する必要があります

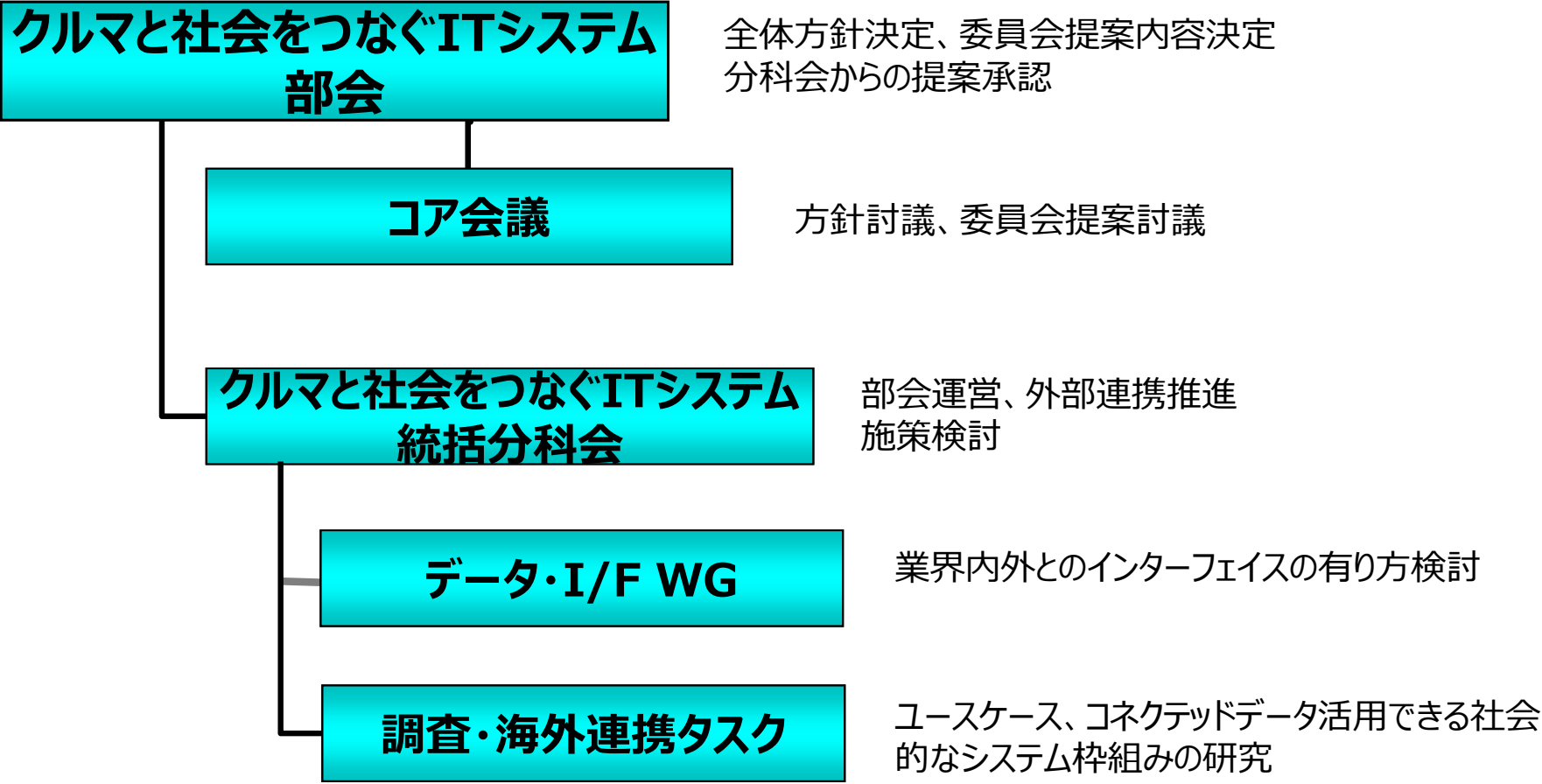
◆ 中期基本方針

社会システムとの共創を見据え、車両データの取り扱いや業界内外との連携方法を、グローバルな視野をもって定める

◆ VS部会の取組み

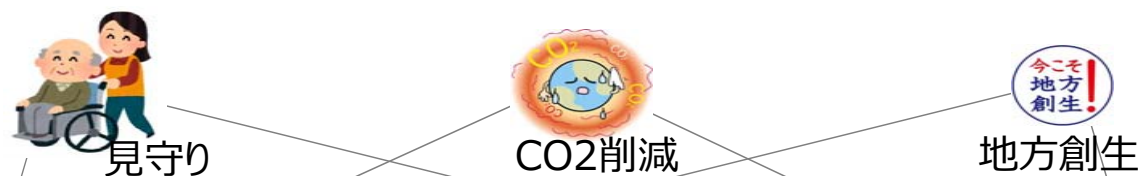
- ✓ 産業間エコシステムの共創構成についてその全体像を具体的なユースケースから描く
- ✓ 車両データの取り扱いと業界内外とのインターフェイスについて検討し推進する
 - 個社の取組みを更に加速・推進するための業界内外連携の有り方と、実装の検討/推進
 - 車両データの取り扱いの整理（データ区分策定とそれに基づいた取り扱い/権利関係の整理）
 - 個社間及び外部との車両データのやりとりに係る標準の検討

クルマと社会をつなぐ、安全・安心で簡単・迅速なデータ利活用環境を実現する
ITシステムの有り方を業界として検討するため部会として19年10月に正式発足しました



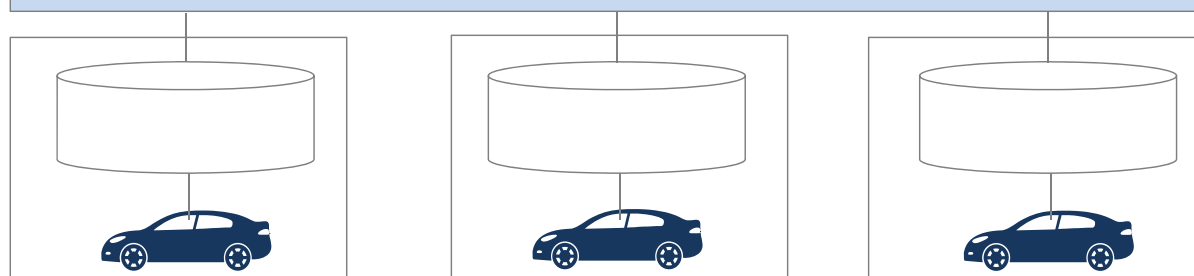
自工会14社コネクテッド関連Out-Car領域のITシステムに携わる部門の部長・管理職・担当者を中心に19年度は考え方や取組み方の整理を進めています

自工会内外の方々と共創



データ活用したサービス実現のために
社会として持つべき必須機能の明確化

業界内外とのインターフェイスの有り方



コネクテッドデータ利活用の基盤作り

業界個社間で協調

データ利活用関連計画や政策を踏まえた
社会的共感醸成

部会活動範囲

活用全体像を具体的なユースケースから描く

車両データの取り扱いと業界内外の
インターフェイス検討・推進

各国法令/社会規範/国際標準を踏まえた
各社データインターフェイス進化推進

20年度より本格的に活動を進めて参ります

ご清聴ありがとうございました。

引き続きJAMA活動へのご理解とご協力を
宜しくお願い致します。